

あすを拓く

株式会社建築工房 零(仙台市)

代表取締役社長

小野 幸助 さん

Kosuke Ono

家づくり・暮らしづくりを通して
未来の子どもたちに胸を張れる
健やかな地域を創造する

Profile

1976年8月24日生まれ。一級建築士。サラリーマン生活を経て建設業界に転身し、2005年に株式会社建築工房 零を設立。以来、社は「地球と暮らそう～act local.think global～」を実現すべく、自然素材と自然エネルギーを活用する家づくりを提唱。東日本大震災発生以降、より脱原発・自然エネルギー推進活動に注力している。

「資源を手当たり次第使い
環境を汚す暮らしを見直したい」
その志から広がる共感の輪

「何を指して『仕事ができる』なのか。私は初めて取り組む仕事をちゃんとクオリティ高くできることだと思ってるんですよ。今までやったことのある仕事をこなせる、だけでは『仕事ができる』とは言わない」小野幸助社長の「仕事論」は奥深い。

大学卒業後、メーカーでサラリーマンをしていたが、もともと暮らしやデザインに興味があった小野社長は1年半ほどで退社し、建築業界へと転身。28歳の時に独立し、住宅建築を主事業とする株式会社建築工房零を設立する。15年間、売り上げは着実に増加し、昨年度の実績はグループ合わせて14億円である。

順調に成長を遂げてきた大きな要因の一つは、小野社長の「志」だろう。「人間は放射性廃棄物を生み、化石燃料をはじめ、資源を手当たり次第に使い、環境を汚している。こうした暮らしを少しでも見直したい」。その思いにスタッフ、そして、施主も共感を覚える。

企業理念に「健やかな地球・健やかな暮らし・健やかな人生」を掲げる。そして2011年の東日本大震災発生後、小野社長は「家づくり



本当に必要なものを見つめ直し
「未来」を設計に組み込む
家づくりをお客様と共に

実際に手掛ける住宅は国産無垢材を使用し、光や風といった自然や、炎のぬくもりを暮らしに取り入れる住み方を提唱。さらに、時の経過により必要とするスペースも変化するという考えの下、間仕切りを最小限に抑える設計の提案も多い。「お客様自身にいわゆるDIYもお勧めしています。そうしたことでより積極的に家を楽しめます」

そもそも、「零」という社名には「本当に必要なものを見つめ直す、引き算の家づくりをする」という意味が込められている。「物質的豊かさを否定するわけではないですが、幸せとは何かと考えたとき、持続可能性、サステナビリティというのは前提だと思えます。太陽を活かす設計など工夫すれば、夏涼しく冬暖かい家づくりというのは可能です」

「プロフェSSIONナル」であることの責任感と誇りも、その言葉から垣間見える。「例えば、道路に面した南向きの窓を大きくして、太陽

光や風、炎のぬくもりを暮らしに取り入れる生活を提唱。時の経過で変化するニーズに対応できる工夫も盛り込まれる

暮らしづくりを通して、必ずこの社会を未来の子どもたちに胸を張れる、本当の意味で豊かで楽しい社会に変えて引き継ぎます」と決意表明、現在も社の内外に広く訴えている。



▲家の随所に健やかな暮らしを目指した設計が垣間見える
◀零の家は子育て世代にも愛され、暮らしに込められた想いも受け継がれていく



光を最大限採り入れたい、というご要望があったとします。これをそのままかかえると、外から家の中が丸見え、夏はサウナ状態なんてことにもなりかねません。実際にそうなったら、お客様は困るはずですよ。ですからわれわれ専門家は、ご要望の真意、潜在ニーズをしっかりとつかまなければなりません。それができてこそプロです」

現在、東北地方での支社・支店展開を検討中。「当社には東北各県から集まった、零の思想を共有する優れたスタッフが揃っています。彼ら彼女らにぜひ地元で光り輝いてほしい。その思いを具体化した一つが、2017年10月に青森県青森市に設けた青森設計室です。とんとん拍子とはいきませんが、着実に現実にしていきたいと思います。そう話す小野社長の笑顔は実に爽やかだ。



自然素材を用い、自然エネルギーを大いに活用する家を提案する

株式会社建築工房 零

- 所在地 / 仙台市泉区上谷町 6-11-6
 - 設立 / 2005年
 - 従業員数 / 57人
 - 主な事業内容 / 住宅および店舗等の設計・設計監理・工事
 - 社是 / 「地球と暮らそう～act local.think global～」
- TEL 022-725-2261 <https://www.zerocraft.com/>

